

## 『筋肉研究最前線』正誤表

このたびは、『筋肉研究最前線』をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。  
本書の内容に以下の訂正箇所がありましたので、訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

箇所		誤	正
p.81	図1の解説	…、そのことが糖の総消費量の減少に範囲されている。	…、そのことが糖の総消費量の減少に <b>反映</b> されている。
p.84	上から4行目	、下肢骨格筋には安静時の15～20の糖が取り込まれる	、下肢骨格筋には安静時の15～20 <b>倍</b> の糖が取り込まれる
p.84	図3のキャプション	図3 骨格筋に糖取り込みを生じさせる細胞内情報伝達経路 <sup>6)</sup>	<b>2型糖尿病患者においても運動時の糖取り込みは正常に生じる</b>
p.84	図3の解説	血液中の糖を骨格筋細胞内へ糖取り込むには、細胞内のGLUT4を細胞膜へと移行させる必要がある。それに至るまでのインスリン(左側)と運動(右側)の細胞内情報伝達経路は異なる。	<b>2型糖尿病患者では、インスリンの細胞内情報伝達経路が阻害されているが、運動のそれは正常に働く。そのため、2型糖尿病患者においても、運動時の糖取り込みは正常に生じる。</b>